

夢に挑戦！ 輝け 内外海っ子

小浜市立内外海小学校

1 取り組みの概要

(1) 地域や家庭と学校の連携実績

項目	回数
地域・学校協議会	3回
中学校区を単位とした協議会	回
地域及び家庭への学校公開	通年日

(2) 地域人材の活用（のべ人数）

講師・ゲストティーチャー	70人
授業ボランティア（含：低ボラ）	1人
登下校支援ボランティア	29人
その他（PTA活動の講師）	人

(3) 特色ある活動

テーマ「読書活動の推進」～家庭地域との連携

具体的活動内容 「うちどく」

子どもたちの読書離れが懸念されている昨今、昨年度の地域・学校協議会で、「ノー・テレビデー、ノー・ゲームデーを設定して、その時間を読書に取り組ませたい」と学校からの改善策を提案したところ、次のような意見が出た。

・本を読む親の子は、本を読む。家庭読書の日を設定するなら、家族みんなで読む時間にするとうい。各家庭で相談して、とれる時間を設定してもらえばよい。

こうした意見を取り入れて、今年度は、「おうちでどくしょ」＝「うちどく」に取り組むことにした。（うちとみのどくしょ＝うちどく）

まず、PTAの全地区一斉懇談会で、子どもたちの読書の実態を聞き、どのような取り組みをすれば子どもが家で読書をするようになるかを話し合った。その結果、

- 大人が読んでいる姿を子どもに見せることが大事。
- 親も一緒に本を読んで感想を話すとうい。
- 1週間に一度くらいなら、家族全員で読書タイムを作ることができそう。
- 子どもが家の本係になって、決めた時間になったら家族に本を渡すとうい。

などの前向きな意見が出された。

そこで、夏休み中に「**わが家のうちどくプランを作ろう！**」として取り組むことにした。用紙に大きくプランを書き、いつもよく見る場所に貼ってもらった。

わが家のうちどくプランの例

- ☆毎晩寝る前、15～20分間は、読書タイム
- ☆日曜日は、お風呂から上がってきた人から寝る時間まで読書タイム
- ☆図書館でたくさん本を借りてきて、土曜日に30分間読む
- ☆自分が読むときは、家族に声をかけて誘う。 など

夏休み明けにアンケートをして、取り組みの様子や結果を伝えてもらった。その結果、

バッチリ…19% まあまあ…51% がんばん…30%

ということで、全体の7割が何らかの取り組みをして手応えがあったと答えていた。以下に、子どもたちと保護者の感想を掲載する。

成果と課題

児童の感想

- ・家族みんなで「うちどく」ができて、うれしかった。たのしかった。
- ・うちどくプランを始めてから、図書館に行くようになった。
- ・お母さんに怒られたときに本を読むと、心が優しくなるような気がする。
- ・家族みんなで読書ができてよかった。またみんなで続けたいと思った。
- ・読書は読み出すと夢中になるが、最大の敵テレビに負けてしまって、ほとんどしていない。
- ・自分は読めたが、家の人には読めなかった。
- ・読書時間はあったけど、マンガが多かった。
- ・最初は気合いが入って読んでいたけど、後は1・2分しか続けられなかった。

保護者の感想

- 「うちどくプラン」を決めてから、テレビを消して、本を読む時間が少し増えました。本の読み聞かせをしたりして、親子や兄弟の触れ合いもでき、よかったと思います。図書館にも行って、この夏休みは、たくさん読書できたね！！
- 家族で本を読む機会が今までありませんでしたが、今回「うちどくプラン」で家族で本を読むことを決め、結果、だいたい守れたと思います。子どもの本を借りるのに市立図書館へ行きました。場所もゆったりと読める所があり、たくさん本があり、これからも家族で図書館へ行き、本を読む時間が増えるといいなあと思いました。
- 大人はあまりたくさん読めませんでしたが、これからも週に1度くらいは、テレビを消して静かな時間を作るのもよいことだなと感じました。
- 苦手な読書ですが、みんなですると少しずつ読むようになってきたと思います。毎週必ずはできませんでしたが、これからも続けていこうと思います。
- 家族そろって読書は、なかなかできなかったね。夏休みが終わっても、土曜日の夜の読書タイムは続けましょう。

この取り組みは、子どもの読書量を増やすことには成功したが、大人の読書は時間がとれないということで、難しかった。夏休みだけでなく、11月から12月にかけても「うちどくプラン」パート2として、取り組んだ。また、学校のホームページに「うちどくブログ」としてたちあげ、おもしろい本の紹介やうまくいったプランの例、本を読んだ感想などを自由に書き込めるように計画した。まず、教員が「わたしのお勧めの本」を載せている。今後ブログが増えるようにPRしていきたい。

こうしたプランが進むきっかけを作ったのが地域・学校協議会であり、今後も学校と地域が連携して子どもたちの教育に取り組んでいきたい。



